

ケアマネジメントサポートネットワーク富山
協定への参加呼びかけに至った経緯について

富山総合福祉研究所
所長 塚本 聡

富山総合福祉研究所の塚本と申します。独立型の居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして働いております。このたび「ケアマネジメントサポートネットワーク富山」協定への参加をひろく呼びかけることになりましたので、その経緯について説明をさせていただければと存じます。当方のような至らない者がなぜそのような大それたことを言い出したのかといぶかしく思われる向きもあるかと思いますが、まずはこれからお話することに耳を傾けていただけましたら幸いです。

独立開業したケアマネジャーがお互いに助け合うネットワークは、富山県内でおおよそ20年ほど前に一度できておりました。その当時の名称は「富山独立型介護支援専門員ネットワーク」といい、定期的に会合を開いたり、のんきなものでみんなで宇奈月温泉に一泊旅行なんぞしておりました。しかし、2005年頃からケアマネジメントの政策が変わり、小規模事業所にとって厳しい方向へと転換していくなかで、メンバーの事業所が閉鎖されたり、独立型をやめて併設サービスで赤字の穴埋めをするようになり、ネットワークの活動は次第に消滅していきました。それでも、当方の場合は幸いお互いに助け合うことのできる友人に恵まれ、不都合を感じることなく今日まで仕事を続けてきました。ところが、ここにきて新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起き、しかも変異の繰り返いで終息の目処が立たない閉塞状況が生じました。そして、その影響も災いして、当方が頼りにしていた方の事業所が閉鎖されることになってしまいました。

今にして思えば当方の不明であり恥じ入るばかりですが、本来であれば感染症のパンデミックで困ったという前に、消滅しかかっていたネットワークを立て直し、助け合う人間関係を強化したり広げたりしていなければいけなかったのです。自分自身が何とかなっていたものだからそこに安住してしまい、大きな視点で責任を自覚したりその責任を果たすということがおろそかになっていました。このことを深く反省し、ではこれからどうすればよいかとよくよく考えたとき、これは独立開業したケアマネジャーだけの私的で狭い利害の問題ではなく、地域のケアマネジメントシステムをどうやって守っていくか、どのような事態が起きても、一時的に地域のケアマネジメントシステム全体の一部に穴が空いたとしてもどうすればすばやくリカバリーしてシステムを支えきることができるのか、大きくとらえるとそういう問題なのだと思がつかしました。そのように底をさらってあらためて構想を組み立て直すことを決意し、当方が日頃からご教導を得ている方々に設立準備世話人として関わっていただいて議論を重ねた結果、この度ようやく協定の成案を得てここにご案内する次第です。つきましては、志を同じくする方々におかれましては本協定へのご参加とご協力を賜りたく存じます。ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

(2022.03.18.)